

哈尼族草頂土掌房における住様式の持続と変容
-中国雲南省・伝統的土掌房住居の空間概念に関する研究-(その3)

正会員 佐藤 一之 *1
徳永 悠二 *2
中島 寿 *2
真野 洋介 *3
初見 学 *4

ハニ族 持続と変容 差異と類似 近代化 奥性 階層性

研究目的

本稿では、前2項までで行った二つの集落及び住居の構成において、変容の要素の抽出から対応している住人の要求・意識を考察し、差異と類似を読み取り、近代化という急激な変化の中、重要視している住様式、基本的要求を明らかにする事を目的とする。

住居構成の差異と類似

両集落に見られる住居形態の差異と類似について考察する。墮脚村の住居の斜面地への対応方法は、主室の非接地階への移行である。掘削し地面を均すだけでは吸収しきれない斜面を、接地階の倉庫・家畜小屋を緩衝帯とすることで吸収し、清潔な水平面を確保している。干塘村の住居では、斜面地への対応方法として、掘削と石を積み、堅固な基礎を築き住居内にレベル差をつける事で斜面を吸収し、水平面を確保している。そのため主室は接地階になる。斜面への対応方法が異なるため、両集落の住居形態には大きな差異が現れている。両集落の住居を構成する要素として、日中の作業場所や居場所として利用されているエントランス前の居間的な外部空間がある。この場所は墮脚村ではエントラステラス、干塘村では主屋前の庭(中庭)という形態で現れる。この場所は両集落の住居構成及び集落と住居とを繋ぐ媒介的な場所として最も重要かつ必要不可欠であると考えられる。(図.1)

住居内部の構成において三つの類似点が見られる。主室は板間で構成され、主人のベット・イロリが置かれる。主室と同一空間の土間にかまどが置かれる。主人のベットの隣に木壁で仕切られた個室が設けられ、女性の寝室とする。この三つの構成は両集落に類似する原理である。(図.2)

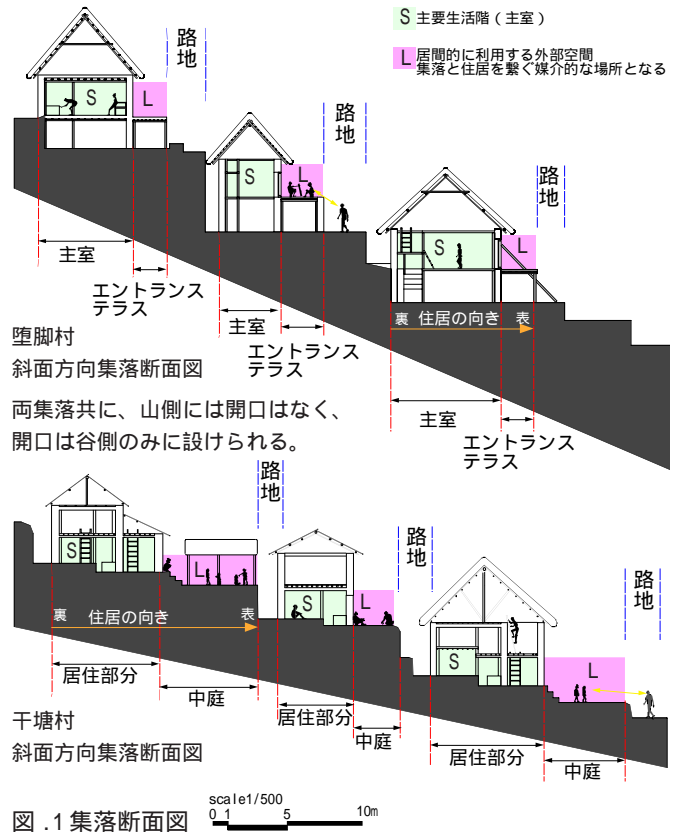


図.1 集落断面図 scale 1/500 0 5 10m

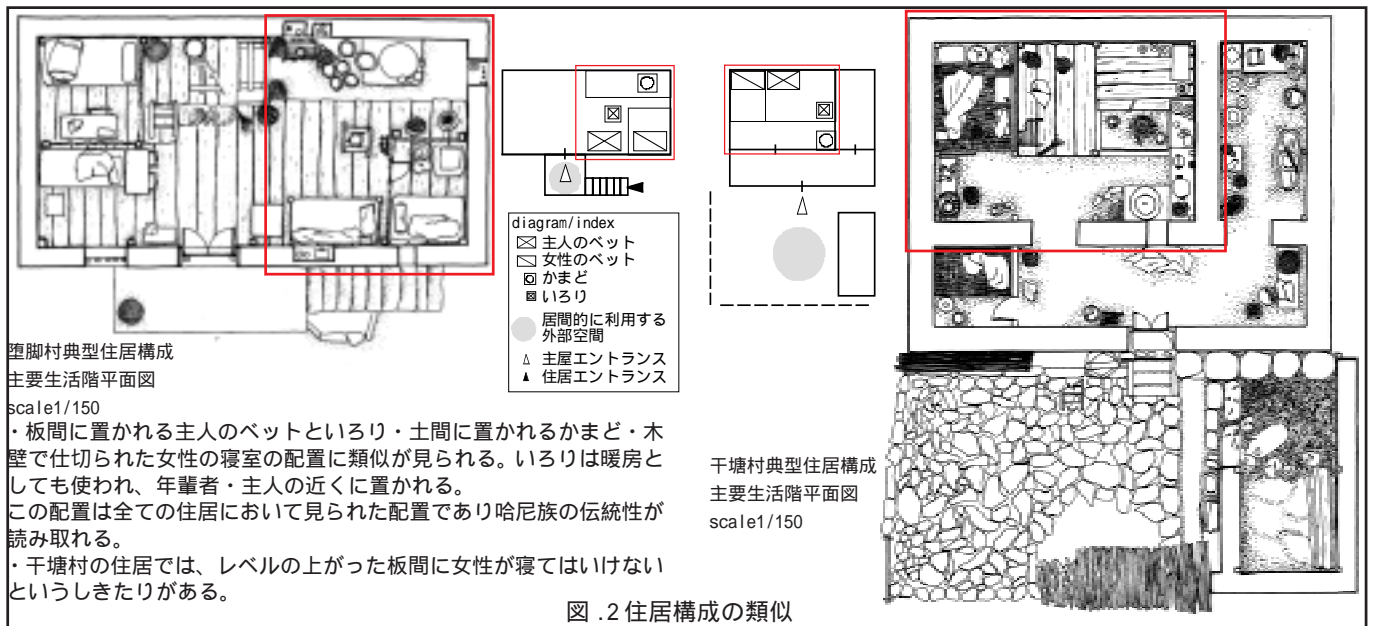


図.2 住居構成の類似

Continuation and Transfiguration of house desing and livènginst'GAO DING TU JUNG FUNG" of Hani-minority
~ A research on the space general idea of the traditional f'ug jdwglling in Yunnan province China,Part ~

Kazuyuki SATO, et al

持続と変容からみる差異と類似 (図.3)

住居形態の持続と変容から読み取れる住人の要求・意識について考察を行う。住居形態の変容から抽出された要素と対応している住人の要求・意識には類似がみられた。斜面地という立地条件により限られた空間の中で、住居の領域を最大限に拡大し、斜面という条件を逆に利用しつつ、領域に序列を作り出すことで、住居内部の私的領域と路地という集落の公的領域の間に階層性を生み出し、主室の奥性を際立たせるという意識であり、その方法は二集落で異なる。

墮脚村では、主室の非接地階への移行した初期段階である一文字型の住居形式では、エントランステラスが設置されていない。接地型住居形式で居間の場所として利用していたエントランス前の場所が消失されると同時に集落と主室に大きな境界が生じている。第二段階においてエントランステラスが増築されることで、エントランス前の居間の場所が再現され、主室と集落を繋ぐ媒介的な役割を果たす。最終的には、エントランステラスを個室により囲み凹型の住居形式にする。これにより、隣家のエントランステラスや、路地から視覚的な境界ができる為、エントランステラスの私的領域の性質が強まり、路地、エントランステラス、主室の空間に階層性が生じ、主室の奥性が顕在化する。

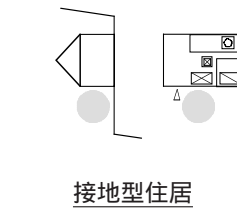
一方、干塘村では、住居内部に路地、庭、前室(居住部分)、主室の4つのレベル差をつけることで空間に序列を与える。さらに主室前の庭を副屋により囲むことで、中庭という私的領域の性質が強まる。これにより、路地、中庭、前室、主室の空間に階層性が生じ、主室の奥性が顕在化する。

両集落において、現れる形態には中庭・エントランステラスと形態は異なるが、その形態の変容と対応関係にある住人の要求・意識に関しては大きな類似がある。限られた規模の住居及び集落の空間に階層性をつくり出す事で生じた主室の奥性を住様式における維持すべき要素として持続している。

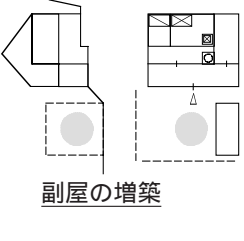
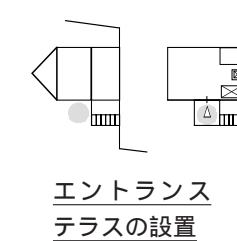
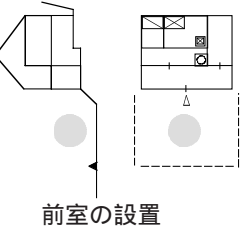
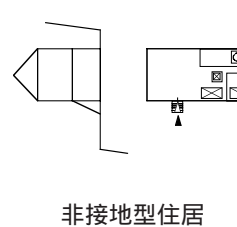
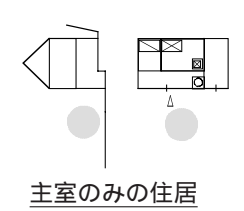
まとめ

今回調査を行った二つの哈尼族土掌房集落は、同一民族で地理的にも、地理、気候的にも同条件の下に集落を構えている。しかし、条件に対する対応方法が異なる為、住居形態に大きな差異として現れている。主要生活階の主要素である、主室の構成には、哈尼族の伝統的な文化が反映されているため類似が見られた。近代化という影響の中にある住居形態の持続と変容に差異はあるが、対応している住人の住様式に対する要求・意識には類似が読み取れる。急激な近代化という影響の中で、住居規模の拡大は閉鎖的なものではなく、住人の意識には住居と集落の限られた空間に、階層性を生み出し、主室の奥性を顕在化することで伝統的構成かつ最も重要な住様式を維持している。一方、近代化の影響も柔軟に受け入れる事で、住居内部の環境を向上させている。このように、住文化において持続する要素、変容する要素の取捨選択を賢明に行い、より洗練された独自の住居、集落を形成している事が明らかになった。

墮脚村・従来の構成



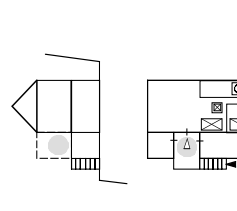
干塘村・従来の構成



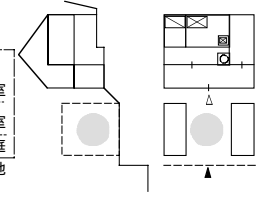
・板間に置かれる主人のベット・いろり・土間に置かれるかまどの配置に類似が見られる。

・両集落共に近年の構成では厨房が独立した空間に移行する傾向にあるが、板間に置かれる主人のベットといろりの配置は持続され、強い伝統性を読み取れる。

墮脚村・増築した構成



干塘村・増築した構成



・両集落共に住居規模を拡大させ、住空間に階層を作り出そうという意識が読み取れる。集落と住居の間に階層性を持つ空間の『ひだ』が生じる事で主室の奥性が顕在化し、主室の構成は維持される。

図.3 持続と変容からみる差異と類似ダイアグラム

<参考文献>

(1)中国雲南省設計院『雲南民居』
 (2)加藤克彦他『陸屋根住居と集落構成に関する研究～中国雲南省土掌房に見られる表層利用の特性～(その1～3)』2000年度日本建築学会大会学術講演梗概 E-2/No.5690～5692
 (3)佐々木大他『彝族平頂土掌房における住様式の持続と変容—中国雲南省・伝統的陸屋根住居の空間公正に関する研究(その1～3)』2002年度日本建築学会大会学術講演梗概 E-2/No.5710～5712

*1 スターツ株式会社 工修

*2 東京理科大学理工学研究所

*3 東京工業大学大学院 助教授・工博

*4 東京理科大学理工学研究所 教授・工博

Starts Co.,Ltd.

Graduate School of Engineering Tokyo University of Science.

Asso.Prof., Tokyo Institute of Technology, Dr.Eng.

Prof., Graduate School of Science and Engineering, Tokyo University of Science, Dr.Eng.